

希望の光 闘病者らに



柔らかいタッチで描いた作品が並び院内＝いずれも熱田区波寄町で

眼病克服の美術家5人作品展

目の病気を治療で克服した美術家五人による展示「光もとめて」が、知り合つきっかけとなった眼科の「名古屋アイクリニック」（熱田区波寄町）で開かれている。闘病する人らに希望を届けたいとの思いから企画された。

（鈴木雄大）

熱田の眼科

参加するのは、三輪光明さん（セ）＝名東区、杉本準一郎さん（モ）＝知多市、牧野克己さん（セ）＝稲沢市、杉浦富貴子さん（九）＝春日井市、水谷寿美子さん（セ）＝同の美術家。油絵、彫



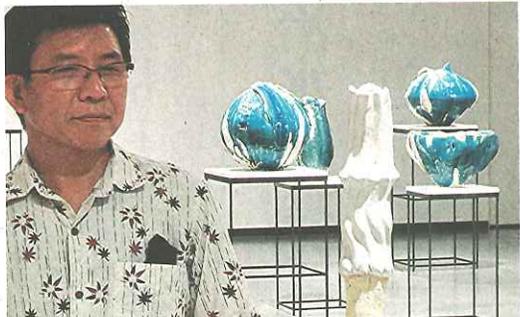
刻、ステンドグラス、絵手紙の計二十五点を出展する。院長の中村友昭さん（五）が仲介し、昨年に画廊で開いたのに続き二回目。初参加の杉浦さんは白内障を経験したが、十一月に百歳を迎える今も裸眼で絵手紙を描く。野菜や果物などを柔らかいタッチで表現し、患者の間で「優しく、かわいらしい」と注目を集める。人が外部から得る情報の多くが視覚とされる中、そ

作品を展示する（左上から時計回りに）杉本さん、牧野さん、杉浦さん、水谷さん

異なる作風楽しんで
西尾の夫妻が陶芸展
ノリタケの森ギャラリー

夫婦それぞれに作陶に取り組み西尾市室町下屋敷の堀井隆さん（五五）、倫子さん（四）による陶芸展が十三日、西区則武新町のノリタケの森ギャラリーで始まった。十八日まで。

隆さんは、「青風流々」と題した力強い印象のオブジェを中心に約三十点を出品。荒々しい表情の白い土の表面に、目に鮮やかなタールコイズブルーの釉薬が勢



いよく流れる。縁に銀彩を施した丸皿、三角皿なども並べた。
倫子さんは、「摘果」と

れを失う不安を経験した五人。「医療現場で展示することに意味がある」と話す通り、過去の自分に近い患者らに、安らぎの時間や前向きになる力を与えたいと

の思いで作品を並べる。

十二月十六日（日曜以外）まで展示。一般公開は十月十七日午前十時～午後五時、十一月二十一日午後二～五時。

有松の魅力を見直し

名短大生が聞き取り調査



江戸時代末期の建築が残る元校舎の「岡家住宅」で、加藤さん（左）から有松絞の説明を聞く学生たち＝緑区で

名古屋短期大（豊明市）

現代教養学科の一年生約六十人は、恒例行事「秋のセミナー」として、日本遺産にも認定されている伝統工芸「有松絞」が伝わる緑区の有松地区で、有松絞やまちづくりに関わる関係者らに聞き取り調査を行った。

同セミナーでは毎年、長

野県で高齢者の家に宿泊し、交流を深めているが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止となった。そのため、キャンパスから徒歩圏内にありながら、学生たちがあまり訪れる機会がなかった有松の魅力を見直し、調査の場を選